

変革の息吹を感じる街 福井市

新幹線開通で、今、活気づいている北陸。2015年に長野駅-金沢駅間で開業した北陸新幹線は、2023年春には福井駅を経由し敦賀駅まで延伸する。このため、福井市では魅力あるまちづくりに向け、整備が急ピッチで進行中。まさに変革のさなかにある街・福井を歩いてみた。

新幹線開業に向けて 市内のインフラ整備が加速

JR福井駅を降り西口へ出ると、美しく整備された駅前広場が広がっている。そこへ入ってきたのは、未来を感じさせる最新型の路面電車。広場には屋根付きのバスターミナルも設置され、その隣には巨大な球体を有する近代的ビルがそびえ立っている。これらはすべて新幹線開通による県内外からの来訪者を見込んで、福井市のまちづくり計画によって生まれたものだ。福井県と福井市では「県都デザイン戦略」を掲げ、2050年を最終目標に、にぎわいのあるまちづくりに取り組んでいる。その一つがインフラ整備。福井には、福井駅から北と東に延びるえちぜん鉄道と、南へ延びる福井鉄道が通っている。その南北の

ルートで、事業者の異なる2つの鉄道の相互乗り入れを実現したのだ。一面倒な乗り換えがなくなり、福井駅から市外の観光地へ行くにも大幅な時間短縮が可能になった。さらに、西口の整備に伴い、福井鉄道の電停を駅前広場内に設けたことで、JRからの乗り継ぎもスムーズになっている。

この相互乗り入れ区間を走行するのが、次世代型路面電車「LRV(ライト・レール・ヴィークル)」。低床車両で子供やお年寄りも乗り降りしやすく、何よりもその先進的なデザインは、美しい景観づくりに一役買っている。

一方、福井市の北を流れる九頭竜川では、新幹線が通る新九頭竜橋(仮称)の整備も進められている。全長415mのこの橋は、新幹線と車が並行して走る仕様になっていて、鉄道と道路が一体になった橋梁は全国初。県道が通ることによって周辺道路の渋滞緩和はもちろん、北陸自動車道からのアクセスなど車での移動も便利になる。

福井駅東口では、現在、新幹線およびえちぜん鉄道の高架工事が進行中。これから先へ延びようとする高架は、未来に向かう福井の姿を象徴しているようだ。

新たなランドマークは 観光の楽しみがいっぱい

西口広場では、球体のある建物にも足を踏み入れてみよう。このビルは、2016年4月にオープンした「ハピリン」。福井を訪れる人の観光拠点となる



駅前広場まで乗り入れている福井鉄道のLRV車両「FUKURAM(フクラム)」。えちぜん鉄道のLRV車両「ki-bo(キーボ)」と合わせて、「希望が膨らむ」という意味が込められている。車依存率の高い福井市民にも人気



橋脚工事が行われている新九頭竜橋(仮称)の建設現場。一つの橋脚の中央部が新幹線専用橋、その両側が上下線の県道橋となる構造で、完成したら新幹線と車が並行して走る全国初の橋梁となる



東口には新幹線高架橋が建設中。現在はえちぜん鉄道が仮線営業運転を行っている



左からJR北陸本線、北陸新幹線、えちぜん鉄道(イメージ図)



鉄道の整備で
福井の魅力あるまちづくりに貢献
鉄道運輸機構 大阪支社 計画部計画課 課長
村上 明さん

鉄道・運輸機構では、福井市内で北陸新幹線の建設とえちぜん鉄道の高架化の工事を行っています。一日でも早い北陸新幹線の開業を望む福井の皆さまの熱い期待に応えるべく、私たちはその期待を踏まえた建設工事を行い、魅力あるまちづくりに貢献していきたいと考えています。



10



11

7.現在は本丸と内堀のみが残る福井城址 8.藩主が本丸へ渡った「御廊下橋」は2008年に復元されたもの 9.福井の名前の由来となったとされる井戸「福の井」



7



8

9



5

5.東口の再開発ビル「AOSSA」。ファッションフロアや図書館、地域交流プラザが入っている 6.西口の駅舎壁面の恐竜3Dトリックアート



6



1.西口に誕生した再開発ビル「ハピリン」。福井市のシンボルであるフェニックスの翼をモチーフにした屋根が印象的

2

2.プラネタリウムが楽しめるハピリンのドームシアター 3.1Fの屋根付き広場(ハピテラス) 4.館内には福井市観光物産館もある

3

4



10.11.柴田勝家と、その妻・お市の方の像がある柴田神社

に、歴史も魅力の一つとして再編成する福井のまちづくりは、これからがますます楽しみです。

今、福井城址には県庁・県警が建っている。しかし、「県都デザイン戦略」によって、いずれは県庁・県警を別の場所に移転し、歴史に触れられる福井城址公園として整備される計画だ。近代化とともに

庄から福井に改名された。

その後、福井藩初代藩主・結城秀康が、北の庄城を移転し福井城をつくる。北という字は「敗北」を連想させることから縁起が悪いとして、そこにあった「福の井」という井戸にちなみ、地名も北の

所には、現在、柴田神社がある。

北の庄城を築城するが、羽柴(豊臣)秀吉と対立。賤ヶ岳の戦いで破れ、妻・お市の方とともにこの城で自害する。北の庄城の本丸があったとされる場所には、現在、柴田神社がある。

朝倉氏滅亡後、現在の福井の街の基盤を築いたのが、織田家の家臣の一人、柴田勝家。勝家は

た城下町跡「乗谷朝倉氏遺跡」。織田信長によって焼き払われた町並みが、400年の時を経て発掘され、復元されている。2015年度に来訪者が100万人を突破したそうだ。

まず立ち寄ったのは、戦国大名・朝倉氏が築いた

時代の歴史ロマンにも触れることができる。

の息吹が感じられる福井だが、街を歩くと、戦国

新しいまちづくりに向けた変革

触れながら街歩き

戦国武将の歴史ロマンに



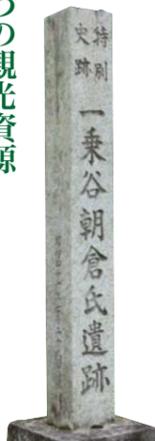
福井城を築いた初代藩主・結城秀康

福井のもう一つの観光資源 恐竜に子供も大興奮

ところで、西口でもう一つ目を引くのが、広場の一角で抜群の存在感を放つ動く恐竜のモニュメントだ。福井は国内随一の恐竜化石の産出地であることから、恐竜王国としての顔を持つ。福井市の東勝山市には、全身骨格などを展示する「福井県立恐竜博物館」があり、2015年度は90万人が訪れる人気スポットになっている。

駅前には3体の恐竜に加え、駅舎の壁面に恐竜の3Dトリックアートも。親子連れが楽しそうに記念撮影する姿が見られた。福井の観光シンボルとして、今後ますます人気を呼ぶに違いない。

スポーツだ。球体部分はドームシアターになっていて、プラネタリウムの他に福井の自然や歴史を映像で知ることができる。そのほか、観光物産館には多彩な名産品が揃い、お土産選びも時間を忘れて楽しめる。福井では2018年に国体が控え、2020年東京オリンピック、2023年春新幹線開業と、国内外から人が訪れるチャンスが続く。こうした流れの中で、インバウンドも意識したおもてなし体勢の強化に力が注がれていると感じ取れた。



国の特別史跡に指定されている「一乗谷朝倉氏遺跡」。風情ある景色が広がる

かつての栄華を物語る、6500㎡の敷地に広がる第5代当主・朝倉義景の館跡



新幹線で多くの人に来てもらえる 魅力あるまちづくりを目指して

福井市都市戦略部 部長 堀内 正人さん



福井県の未来図「県都デザイン戦略」

福井市は、1945年の戦災と、その3年後の福井大地震で壊滅状態となり、そこから不死鳥のごとく甦った街です。今、2023年春の新幹線開業に向けて、さらに新しい進化を遂げようとしています。我々が見据えているのは、東京に至るルートだけでなく、敦賀よりさらに西、大阪までのルートが整備されること。そうなったときに多くの人に福井に来てもらえるよう、いかに魅力あるまちづくりを行うかが重要課題なのです。

とくに、戦国時代を偲ぶ福井城址が駅から近く近くにあることは、福井の魅力の一つです。将来はここを城址公園として整備することで、県民や市民が誇りに思えるような、福井ならではのスポットにしたいと考えています。

また、朝倉氏遺跡をはじめ、福井市から足を伸ばせば永平寺、平泉寺など、福井県内には本物の歴史に触れられる場所がたくさんあります。歴史以外では恐竜博物館、越前海岸の美しい景色、冬の味覚カニなど、ファミリーで楽しんでいただけのスポットも充実しています。

今後はそれらを福井全体の観光資源として、幅広い層に訴求できる観光ルートの整備も進めていきたいと思っています。